



第204号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院

帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

公益財団法人北海道医療団 永年勤続者表彰式



帯広第一病院



帯広西病院



介護老人保健施設とかち



音更病院

今号の内容

- ・新年のご挨拶 理事長 小林 光樹 / 院長 山並 秀章 (2)
- ・医療機関と特定行為研修を修了した看護師がタッグを組んだ在宅医療 総合診療科部長 竹中 芳子
訪問看護ステーションたなごころ 所長 大溝 敬子 主任 高橋 志保 (3)
- ・消化器内科外科カンファレンス 副院長 井伊 貴幸 (4)

新年のご挨拶



理事長 小林 光樹



明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の猛威が続いている中ですが、本年もよろしくお願いいたします。

私たちの公益財団法人北海道医療団は、法人の理念として「公益性を実現することにより地域の医療福祉に貢献すること（頼りになる法人となること）」を掲げています。西4条南15丁目に帯広第一病院と訪問看護ステーションなごころ、西23条南1丁目に帯広西病院、西21条南3丁目にながい内科医院、音更町緑陽台に音更病院、老健とかちとほほえみ3事業所があり、4か所の拠点でそれぞれ特色を生かして事業を行っています。今後、さらにこの4拠点でそれぞれの地区の特性にマッチした事業内容を整え充実することで理念を実現していくのが私たちの目標です。

そのためには皆さまと協力、連携していくことが不可欠と考えています。直接話をし、手に手を取り合うことで少しでも目標に近づいていけるものと思います。本年もよろしくお願いいたします。そして、本年も皆さまのご健勝とご活躍を祈念しております。

院長 山並 秀章



あけましておめでとうございます。

昨年ほどの医療機関、介護施設も新型コロナへの対応に明け暮れた年だと思えます。それぞれのご苦勞、お察しいたします。当院も同様で、院内のコロナ対応のため、平日日中などは救急患者さんの受け入れをお断りすることも多く、管内の皆さまには大変申し訳なく思っています。その中でも、二次救急当番に穴が開かないように、他の輪番病院とともに努力してまいりました。今年も十勝の地域医療を守るためになお一層、精進して参る所存です。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

今年卯年です。ウサギの跳ねる様子から、飛躍の年になると言われているようです。新型コロナが5類になるといふ噂もあり、また新しい対応が必要になってくるものと思います。これまでの努力が実り、当院および皆さまそれぞれ施設が飛躍できることを、祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。

医療機関と特定行為研修を修了した看護師と タッグを組んだ在宅医療



総合診療科部長
竹中 芳子

高齢社会を迎え、病気を抱え医療を必要としながら、住み慣れた場所で生活することは一つの課題であると考えています。たなごころの特定看護師と連携し、医師の指示書のもとに「脱水症状に対する輸液による補正」、「褥瘡または慢性創傷の治療」などの特定行為が可能となりました。これにより、必要な医療を在宅の患者さんに適切に提供することができ、安心した療養生活を送れるための助力となると感じています。これからも、住み慣れた地域で安心して暮らしたいという思いを支えられるように、連携を強化しよりよい在宅医療を提供できるように尽力したいと考えています。



訪問看護ステーション
たなごころ
所長 大溝 敬子

当事業所で実施できる特定行為は気管カニューレの交換・胃瘻カテーテルの交換、褥瘡、慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正になります。

これまでに帯広第一病院総合診療科竹中医師と連携し褥瘡処置の特定行為を実施し速やかな治癒へ向ける事ができました。現在は気管カニューレの交換の実施に向け竹中医師の訪問診療に同行し手技の指導・助言を受けているところです。看護師により特定行為を実施するメリットは、専門機関の受診を要さずに在宅での対応ができ、タイムリーかつ迅速に適切な医療を受けられ症状が早期回復につながるなどがあります。今後も地域医療に貢献できるよう実績を積んでいく予定です。



左から大溝所長、竹中医師、高橋主任（特定行為研修終了）



消化器内科・外科カンファレンス

副院長 井伊 貴幸



地域の先生方には日頃より大変お世話になっております。

当院では週1回朝8時より、消化器内科、外科のスタッフによるカンファレンスを行なっております。

胆石性胆嚢炎、胃癌、大腸癌など、手術による治療が必要となる患者様の治療方針について、内科、外科の両面から検討しています。内視鏡的治療の可否や、外科的手術の術式の検討、追加検査の必要性、術前・術後化学療法の適応など、それぞれの患者様にとって最良の治療となるよう入念に準備を行い、このカンファレンスで話し合われた内容をもとに、術前外来で説明を行っております。

カンファレンスでは年間250～300例程度の検討がなされておりますが、地域の先生方からご紹介頂きました患者様も多く含まれております。手術内容、病理結果、術後経過などは担当医よりご報告させていただいておりますが、不明な点などありましたらご連絡頂けますと幸いに存じます。

今後も患者様にとって良い治療となるよう努めてまいります。お困りの症例などありましたら、地域医療連携室や、担当科待機医にお気軽にご相談ください。今後とも宜しくお願い申し上げます。



発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)

FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

